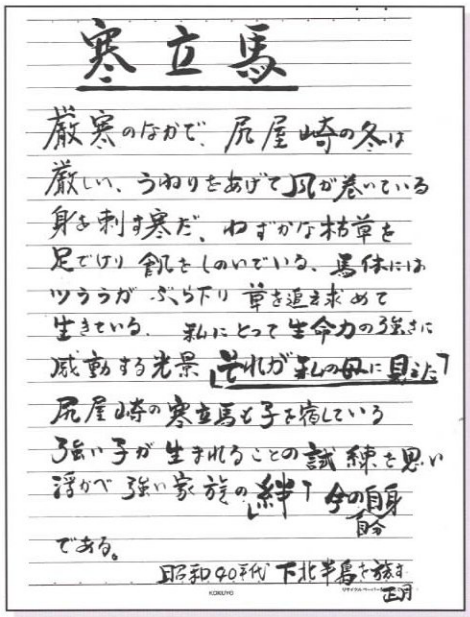
自然を読み、稲と語り、冷害を防ぐ技術のすべて

● 小林　福蔵さん

ー恩師、友人、自然から学び、社会に恩返しー

米作り半世紀以上。科学技術の進歩した時代に襲った大飢饉。気象の恐ろしさを体験した。幸い恩師、友人、そして大自然から学んだこと、貧しい家庭で育った苦しさが心の土台となり、すべて自分を支えてくれた。その慶びを社会に恩返しができた。いまだに未完成だが「農は心を耕す」を座右の銘として、人生の残りを頑張りたい。



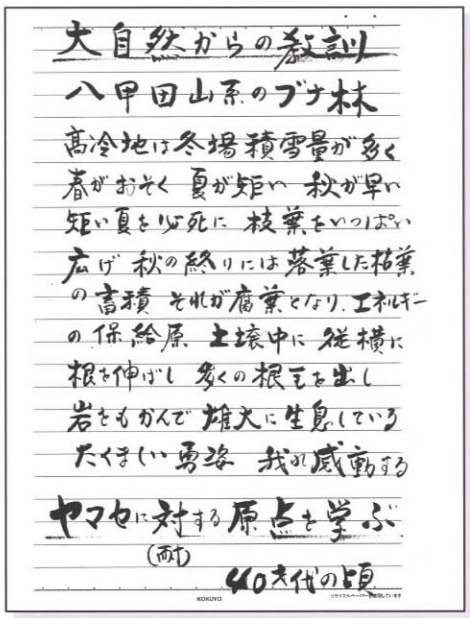
寒立馬

厳寒のなかで、尻屋崎の冬は厳しい、うねりをあげて風が巻いている身を刺す寒だ、わずかな枯草を足でけり飢をしのいでいる、馬体にはツララがぶら下り草を追を求めて生きている、私にとって生命力の強さに感動する光景 それが我の心に見えた

尻屋崎の寒立馬も子を宿している強い子が生まれることの試練を思い浮かべ強い家族の絆 今の自分

である。

昭和40年代 下北半島を旅す 正月



大自然からの教訓

八甲田山系のブナ林

高冷地は冬場積雪量が多く春がおそく夏が短い秋が早い短い夏を必死に枝葉をいっぱい広げ秋の終りには落葉した枯葉の高積それが腐葉となり、エネルギーの保給源、土壌中に縦横に根を伸ばし多くの根毛を出し岩をもかんで雄大に生息している たくましい勇姿 我が感動する

ヤマセに対する原点を学ぶ

(而)

40年代の頃

● 金沢　俊光さん

昭和10年生まれ。昭和33年青森県職員となる。農業試験場に配属され、水稲の栽培・育種に関する試験研究に従事。昭和61年藤坂支場長、平成4年農業試験場長を経て、平成8年3月に定年退職。この間、農林行政（3年）、農業教育（4年）にも従事。現在はＪＡ青森経済連米穀部技術主管。

小林氏が昭和33年に青森農試より水稲の現地試験を委託され、その後の活動過程で懇意となる。特に、昭和55・56年の大冷害で小林氏の実力が高く評価され、現地指導の拠点となり接触の密度を増す。